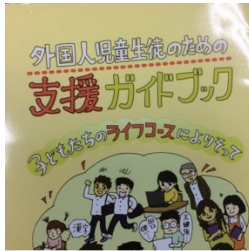


タスク A 「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

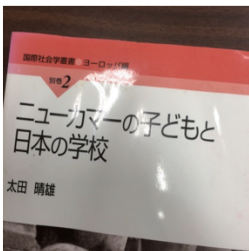
ここにあげているのは、数々の「外国人児童生徒等教育」の関連本です。
ところが、その対象となっている子どもたちの「呼称」はなぜかまちまちです。
たとえば「特別支援を必要とする子ども」の場合、総称としてここまで色々な呼び方はないかと思います。なぜ、こんなにもいろいろな「呼び方」があるのでしょうか。



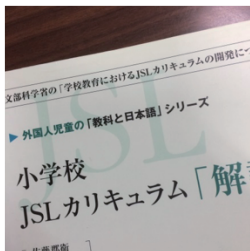
A 外国人児童生徒



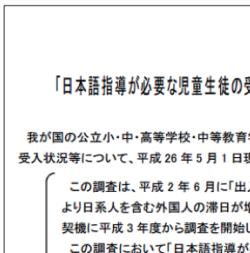
B 外国籍児童生徒



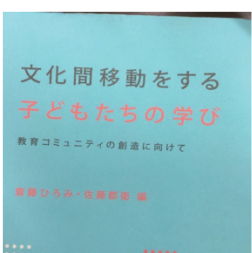
C ニュウカマー*の子ども



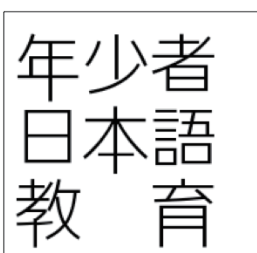
D JSL** 児童生徒



E 日本語指導が必要な児童生徒



F 文化間移動をする子ども



G 年少者

* ニュウカマー
1980 年代以降に日本へ渡り長期滞在する外国人を指す。特に訪日韓国人にあっては第二次世界大戦前後に、日本国民として徴用あるいは経済難民として訪日した日韓国・朝鮮人と区別するための概念

** JSL
Japanese as a Second Language
「第二言語としての日本語」という意味

Q

それを考えるために、以下のモデルの子どもたちから考えます。
この子どもたちは、上の A～G の中で、どの「呼称」が妥当だと思いますか？ 下の□に最も妥当だと思うものを入力してください。

① リアン君

小学校3年生。2か月前にインドネシアから来日しました。父母はともにインドネシア人です。
日本語はたどたどしいけれど、クラスの友だちと少しずつ話すようになってきています。でも、クラスの中での学習はまだ難しいものがたくさんあります。そのため、国語の時間を中心に、日本語教室に通っています。
それから、自分ではあまり自覚はないのですが、両親もイスラム教徒です。給食ではいつも、食べてはいけないものがあるかどうか、ちょっと注意をしないとイケないのが困っています。イスラム教があまりまだ日本では浸透していないことや、最近の国際的なニュースでのイスラムの報道などもあいまって、両親は日本で暮らしていくことに不安も感じています。

② 太田京花さん

小学校5年生。中国人の母と、日本人の父が結婚し、日本で生まれました。日本国籍を持っています。
家ではお母さんとは中国語を話し、お父さんとは日本語と中国語半々で話をします。お父さんは仕事で家にいないときが多いので、中国語の時の方が多いかなと思います。
学校では、友だちとの会話はみんなと同じようにできます。ただ、どうも国語や社会の学習は難しく、ついていけないことがあります。特に、4年生のころから、そんなことが目立つようになってきました。
母が中国人だからと言って直接何か言われるわけではないのですが、クラスの授業で、中国のことが話題になった時に、中国の悪口が何気なく飛び交うと、なんとなく嫌な気分にもなります。周りは自分の名前も太田だから、特に気づかないのかもしれません。

③ 田中・シモーネ・美由紀さん

中学3年生。小学校2年生の時にブラジルから日本に来ました。両親は、日系ブラジル人（かつて日本からブラジルに移住した人を先祖に持つ）なので、ブラジル人とも言えるけれど、日本の血も引いています。22歳までに、ブラジル国籍か日本国籍かは決めなければなりません。
もう来日して7年がたちます。来たころは日本語もわからなかったし、勉強にもとても苦労しました。でも今は周りにもついていけます。高校受験も迫ってきて、志望校に入れるように頑張っていきたいと思っています。ただ、いつも思うのは、将来私は日本かブラジルか、どこで生きていこうかということ。国籍を選択していくことも含め、友だちとは共有しにくい悩みです。



ダウンロードしてPDF上で書き込めます

